

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.376.2026

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2026年2月20日発行

公益財団法人仙台 YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町 9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島見子



放課後等デイサービス ～みんなの未来を豊かに～

放課後等デイサービスYMCAみらい・YMCAきぼうは、障がいがあるお子さんや小集団でのごしが適している小学生～高校生たちが通っています。YMCAみらい・きぼうでは、長期休暇の前に、自分の意見を表したり、自己決定の練習として、メンバーたちに意見を聞いてプログラムを立てています。「春休みに行きたいところ、やりたいこと、食べたいものがあったら教えて」と1月下旬に声をかけると「ジョイポリス!」「さんきょざわ(交通公園)」等、メンバーたちが答えたり、張り出しておいた紙に書いたりしてくれます。あるメンバーが「バスに乗りたい」とやって来たので、「わかった、バスね」と紙に書いていると、他のスタッフから「どこに行きたいかも言えた?」と聞かれ「バスに乗ってカラオケに行きたい」とより具体的に教えてくれました。スタッフで検討した結果、バスとカラオケを同日に行くと費用が高くなってしまいうので、後日「バスに乗るとカラオケは別な日でいい?」と聞き了承を得て、他に「バスで行きたいところある?」と聞くと他のメンバーが「科学館行きたい」と言いました。「科学館でもいいよ」とのことので、バスの時間を調べ、「科学館に直通のバスで行って帰って来ると科学館にいる時間が短くなっちゃうからバスで行って地下鉄で帰ってくるのはどう?」と聞くと了承してくれ、春休みプログラムが1つ決まりました。

(第2面へつづく)

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがやを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を広げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

1つのプログラムを決める過程の中で、自分の意見を表明し、誰かの意見を取り入れたり、自分の意見を調整したりすることも上手になってきました。そして、自分が出した意見がプログラム化されることで自己肯定感や自己有用感が高まっていくことも私たちの願いです。放課後等デイサービスの大きな役割として、本人支援のみではなく、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携があります。その中の家族支援として、開所当時から年に1-2回親子プログラムを行っています。保護者の方や兄弟と一緒に参加する行事で、今回はメンバーたちが製菓実習室でマフィンを作っている間に保護者の方々と茶話会を行いました。卒業生の先輩お母さんをゲストにお招きし、ひげのそり方等の日常的な相談から習い事のこと、ショートステイ等のサービスの利用、そして、学校卒業後の進路について等、様々なお話ができました。毎回「知らないことばかりで勉強になりました」「同じように悩んでいる方がいたのがわかって安心した」のようなお声をいただいています。数多くの放課後等デイサービスの中からYMCAを選んだ理由の1つに、「保護者の方と話せる機会があると先輩ママから聞いて」とおっしゃっていただくこともあります。親子プログラムを通して、お子さんたちの成長を喜び合ったり、悩みを分かち合ったりしながら、将来の見通しが少しみえるようになり、保護者の方の心が少しでも軽くなればと願っています。

2025年度もあ товずか。大きな環境の変化に4月には大きな声をだしたり、チクチク言葉を発していた1年生たちも、みらいのルールをまもってシールを貼りたい！とチクチク言葉を使わないようがんばる姿や、「みらいでともだちが4人できた！」と言う姿がみられ、1年間のみんなの成長とかんばりに感動しているところです。学校でがんばってきたメンバーたちが、好きなことを楽しめる場、安心できる居場所を守りながら、これからもみんなの希望が叶えられ、未来が豊かになるようにかかわっていきます。

(YMCAみらい 跡部 絵美)



卒業・卒園メッセージ



仙台YMCA幼稚園

芦生 陽さん保護者 芦生 あす香さん

もう大好きなYMCA幼稚園とお別れなのかと寂しい気持ちと感謝の気持ちでこの文章を書いています。我が家は長女が入園した平成31年4月から次女が卒園する令和8年3月まで仙台YMCA幼稚園にお世話になりました。長女を出産して1年で仕事復帰し、毎日祖母のサポートを受けながら必死に過ごしていた私は育児書を読むことなく、ママ友とお話する機会もなく子育てをしてきました。YMCAにお世話になることになり、説明会の日に園長先生から幼稚園の理念、先生方が大切にしている事をお聞きし、感銘を受けたのを今でも覚えています。そして子育て＝心を育てることなのだを教えていただき、自分がしたい子育てがそれなのだ気づいたきっかけでもありました。それからは毎月あゆみに掲載される園長先生の言葉を楽しみに、それを我が家の育児書のように読んでいました。そして、日々の先生方の声掛け、接し方、考え方に都度感動しこれこそが心を育て、個性を認め活かすことなのだ学びました。また園での遊びや行事はどれも子どもたちが主体であり、言葉通り子どもたちから生まれた遊びやアイデアを先生方が叶える環境をいつでも準備してくださいました。その取り組みの中で育った子どもたちはのびのびとしながらも、自分で考える事、感じることの大切さを培ったのではないかと思いますし、この経験がきっとこれから生きていく中で大きな支えと土台になっていくだろうと思います。自分自身が親になった今、主体的に生きていけるエネルギーは人生にとって、とても大切なことだと思います。我が子が幼児期をこのような環境で過ごせたのは本当にありがたく、先生方に感謝申し上げます。我が家は子どもたちを朝送っていくのは私が、お迎えは祖母にお願いしていました。そのため先生方との思い出は祖母の方が多いくらいかもしれませんが、家族みんなの思い出が詰まった幼稚園とお別れは寂しいですがこれからもYMCAのプログラムに参加させていただき、先生方にたくさん会いにいきたいと思います。仲良くしてくださったママ友のみなさん、園長先生、先生方に大きな感謝をお伝えしたいです。本当にありがとうございました。

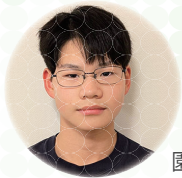


健康教育事業部

東北福祉大4年 佐々木 耀子さん

仙台YMCAでの数えきれない思い出と経験、出会った人たちがこれまでとこれからの私を支えてくれていることを強く実感する。そして、たくさんの学びを得ることができた。ついに見送られる側になってしまったが、私の大学生生活をYMCA抜きでは語れないほどに活動し続けられたという喜びを感じている。

他者のために最大限力を注ぎたいという思いで、ボランティア場所を入学後すぐに探し始めた。今思えば、相手に尽くすことが自分自身と向き合わずに済む術だと思い込ませていたのだろう。しかし、子どもたちに限らず、人と親密に関わる時には、自己開示が必要不可欠であることをはじめに学んだ。失敗することや間違えることを何よりも不安に感じてしまう私は、常に一步引いた所にいることが多かった。「心から楽しいと思って活動できている？」とスタッフさんに問われ、自分の言動を見つめ直すきっかけをいただいたことを昨日のことにように覚えている。リーダーズフォーラムと全国リーダー研修会で同志たちと語り合い、つながることができたのも有難い経験である。ひとつのクラスを終え、プログラムを終え、一年が終わるごとに私には何ができたのだろうか振り返っていた。もっとこうできたら…別の行動ができたら…と反省ばかりであるが、それ以上に子どもたちがかわいかったな。楽しかったなと温かい思い出で溢れる。そして、仲間たちとスタッフの皆様が温かい言葉で包み込んでくれていた。改めて、私はたくさんのものを与えられているのだと感じる。「誰かのために」と始めたことがいつの間にか私が「もらう場所」になっていた。出会った子どもたちとリーダーの仲間、スタッフの皆様とYMCAを通して関わって下さった皆様が私を「リーダー」してくれた。本当にこの空間が大好きで、リーダーとして少しでも携わることができて良かったと思う。就職に伴ってリーダーと名乗れる場所を離れてしまうが、いつでも帰ってきたい場所として胸に大事にしまっておく。最後に、活動をするにあたって支え続けてくれた最強の仲間たちと仙台YMCAの皆様、家族に心から感謝いたします。



ポップクラブ

上杉山通小学校 6年 加賀 勘太郎 さん

今までYMCAでたくさんのことを教えてくださり、本当にありがとございました。YMCAで過ごした時間は、ぼくにとって大切な思い出です。リーダーのみなさんのおかげで、毎回安心して楽しく活動することができました。一緒に公園へ遊びに行ったり、さまざまな活動をしたことは、どれも心に残っています。YMCAでの毎回の活動は楽しく、たくさんの友達と思い出ができました。特にポップキャンプがとても楽しかったです。中学生になりYMCAを卒業することになりますが、ここで過ごした皆さんとの時間はこれから先もずっとぼくの力になってくれると思います。中学校生活の中でも、YMCAで学んだ事を大切に活かしていきたいです。今まで本当にありがとうございました。リーダーのみなさんのことを、これからもずっと忘れません。



YMCA加茂こども園

伊藤 さくら さん 保護者

娘が0歳児で入園したのは、新型コロナウイルスの流行により緊急事態宣言が出された2020年4月のことでした。外出自粛のため慣らし保育の開始時期も延期になり、未知のウイルスへの恐怖と閉塞感に不安でいっぱいでした。「密」が避けられない保育の場ですから、先生方はより一層困難や緊張の連続だったと思います。しかしその大変さを私たちには見せず、とても温かく迎えてくださいました。慣らし保育中もなかなか慣れず泣いて給食を食べない娘に、「気分を変えてテラスでご飯を食べてみよう!」と様々な工夫をしてくださったおかげで、徐々に園生活に慣れていきました。また、送迎時泣いている娘に困り果てていた時「私は自分を持っている子大好きですよ!」と先生が声をかけてくださり、自己主張できることをプラスに受け止めていただけて、なんだかとても心がスッと軽くなりました。何事も受け止め方次第で景色が変わることを教えていただきました。

ひかり組になり野外保育場『からふる』が開所し、コロナ過で自由に遊べなかった時間を取り戻すかのように自然の中を走り回りました。子どもたちが安全に遊べるようにと先生方が手をかけてくださった、とても大好きな場所です。おにぎりを持って、焚火で焼きマシュマロを作ってとワクワク楽しみな時間でした。一大イベントとしては、親元から離れて一泊するキャンプです。娘は一度も親と離れて夜を過ごした経験がなく本人もとても不安がっていましたが、先生方の大きなサポートとお友だちの存在のおかげで、しっかりと成し遂げることができました。一回り大きく成長して帰ってきた娘をぎゅっと抱きしめた、あの時の安心感と娘のぬくもりを今でも忘れません。

振り返ると本当にあっという間の6年間でした。悩んでいる時に寄り添い、一緒に考え、成長を喜び合ってくださった先生方には心から感謝しています。こども園でいろいろな経験をさせていただいたこと、挑戦したこと、心について学んだこと、今後子どもたちの未来の生きる力になります。本当にありがとうございました。



仙台YMCA国際ホテル専門学校

ホテル科2年 渡邊 光希 さん

私は、日本人の両親のもとアメリカで生まれアメリカで育ちました。2020年6月にアメリカの高校を卒業後、自分は将来どんな職業に就きたいのか、全く想像できませんでした。ある時、父親から日本でホテルやホスピタリティ、接客業を本格的に勉強できる専門学校がある、という話を聞きました。私はそれまで日本に住んだことがなかったので、新しいことに挑戦しようという決断をし、2024年4月から仙台YMCA国際ホテル専門学校へ入学しました。日本で初めての一人暮らしでもあったので、不安や心配との戦いの日々が続きました。先生方や日本人学生のみなさん、留学生のみなさんが優しく温かく接してくれたので、自分も安心して学生生活を送ることができました。この2年間、さまざまな出来事がたくさんありました。自分にとって印象的だった3つの出来事をご紹介します。

- 1.ホテルでの実習：長期休業期間に、実際にホテルで実習をし接客業界で働くことの難しさを体験することができました。
- 2.高齢者施設うらやす訪問：学生たちが介護施設の高齢者の方々と触れ合い、おもてなしをする心温まるイベントでした。自分は司会役を務めさせていただきました。「ビリーブ」をみんなで合唱したことがとても心に残っています。
- 3.和食テーブルマナー講習会：お箸の扱い方から、日本食の会席コース料理の献立と食べ方の順番を教わりました。秋の季節の食材を使ったお料理が多かったです。日本のおもてなしは季節に添っていることに感動しました。

私はこの専門学校で、さまざまな人との交流が深くなりました。専門学校で過ごした2年間で経験したことは、全て簡単な事ではなかったけれど、挫折を何度も繰り返しながら自分の家族や周りに支えられたおかげで、無事に卒業を迎えられることを大変嬉しく思っています。

皆さんと離れるのは寂しい気持ちでいっぱいですが、YMCAで出会った皆さんのことはいつまでも心の中にあります。これから先も自分を信じて、力強く、少しずつ、前へと進んでいきます!

維持会費 (1月16日～2月15日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

維持会員B 菊地 弘生

法人会員B けやき会計事務所・税理士事務所

※敬称略



絵：伊勢文夫さん

一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7533

FAX:022-222-2952

ボランティアリーダー 仙台大学2年 武山 ほのか さん

私は小学生の頃に仙台YMCAのメンバーとして活動していました。高校卒業後、お世話になったリーダーたちに会いに行った際にボランティアリーダーに誘われリーダーを始めました。活動では、キラキラ輝く子どもたちの笑顔に元気をもらったり、子どもの頃に戻ったように自分も一緒に楽しんでいたり、毎回ワクワクしながらYMCAに行き、気づけばほとんどのプログラムに参加していました。ボランティアを続けていく中で、子どもたちが私を見かけると元気な声で名前を呼んでくれたり、「次はいつ来るの?」と聞いてくれたりすることがとても嬉しく、活力に繋がっています。たくさんのやりがいや喜びがある中で、難しいことや悩むこともあります。しかし、今どんな気持ちなのか、探って、考えて、うまくはいなくても「次はこうしてみよう!」と何度も試行錯誤を繰り返しています。その結果が子どもたちの「楽しかった!」という声や笑顔、信頼関係に結びついた時は、とてもやりがいを感じます。また、リーダーは、活動を通して一番近くで子どもたちの思いやりに溢れた温かい言動を見聞きすることができます。『初めて』の瞬間に立ち会うこともできます。喜怒哀楽やたくさんの感情を分かち合えることや子どもの成長を見守っていけることも私の喜びに繋がっています。今後ボランティアを続けていくにあたり理想とするリーダー像は、初めてに触れる。挑戦する。また『できる』という喜びを経験できるよう、興味や好奇心を引き出し、踏み出す一歩を後押しできるようなリーダーです。私が子どもの頃に仙台YMCAで体験したことや得た感情は今でも心に残っています。今度は私が子どもたちの成長に立ち会い、思い出を彩れるようになりたいです。「お友だちやリーダーに会いたいから行きたい!」と子どもたちが思えるような居場所をつくり、今の子どもたちが大人になった時に「いい経験をしたな!」と少しでも思ってもらえるよう日々子どもたちと過ごせる時間を大切に活動していきたいです。



中央・武山さん

YMCA と私

ポップクラブ

加賀 麻衣子さん（加賀悠太郎、康太郎、勘太郎 さん保護者）

長男が小学校に入学した時から、次男、三男へと続き、気がつけば11年間という長い年月、YMCAの皆さまには大変お世話になりました。振り返ると、我が家の子育てと仕事の日々のすぐそばには、いつもYMCAの存在がありました。放課後のポップクラブの他、ジュニアクラブでの水泳・サッカー・キャンプに参加させて頂き、YMCAがなくては我が家の生活は成り立ちませんでした。毎日放課後には学校までのお迎えの後、YMCAで夕方の時間を安心して過ごさせていただき、そしてリーダーが一日の様子を丁寧に伝えて下さったことは、親として働くうえで何より心強い支えでした。子どもたちがどんな事を楽しんで過ごしているのか、時には何に困っているのかを知ることができ、本当に助けられました。子どもたちは、リーダーの皆さんの温かさや根気強い関わり、そして共に過ごした友だちとの時間の中で、少しずつ思いやりや協調性を身につけていったように思います。年齢の違う子どもたちと関わる中で、年上としての責任感や、年下への優しさも自然に学ばせていただきました。また、夏休みなどの長期休みには、さまざまな活動や多くの場所へ連れて行っていただき、家庭だけでは得られない貴重な経験を数多くさせていただきました。自然の中で体を動かしたこと、新しいことに挑戦したこと、その一つ一つが、子どもたちの心にしっかりと残っていると思います。11年間、子どもたちの成長を共に見守り、支えてくださったYMCAの皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



Column

仙台広瀬川ワイズメンズクラブ

『仙台広瀬川ワイズメンズクラブ活動報告』 ー日本語でプレゼンテーションー

仙台広瀬川ワイズメンズクラブ 加藤 研

広瀬川クラブ独自の活動は2つあります。1つ目はメネットによる「エプロンシアター作り」2つ目は「留学生による日本語でプレゼンテーション」です。今回は「日本語でプレゼンテーション」のお話をします。東日本大震災から10年の節目の年は、広瀬川クラブ創立10年の年でもありました。10周年を祝う際、記念になる催しがないものかと頭をひねり生み出しました。1回で終了のはずが、想像以上の感動と充実感に心も体も満たされ、可能な限り継続しようとなり現在に至りました。昨年無事5回を迎えました。毎回5-6人のホテル学校学生が単独もしくはコンビで日本語を駆使し、自分で決めた演題を発表します。いずれも熟慮を重ねた素晴らしい発表でした。特に今回は、留学生生活の中で悩んだ「心の変遷」を聴衆に訴えた発表がありました。それがどのようなものであったか、その一端を要約してお伝えします。ブルテル・パワナさん（ネパール）テーマ「日本で変わった自分」○来日当初日本語が分からず、授業内容も理解できず悔しい思いをした。○諦めず毎晩ノートを見返し、新しい言葉をメモして復習し、友人や先生に質問を重ねる努力をした。○先生に「日本語が上手になったね」と言われた一言が、努力が報われたと感じる宝となり、諦めずに続けることの大切さを学んだ。またズオン・ティ・ハさん（ベトナム）テーマは「安全を選ぶか挑戦を選ぶか」○技能実習生として働いた後、母国で安定した生活を送るか留学生として再来日し夢に挑戦するか葛藤の末、心のどこかにやり残したことがあると感じ再来日。○当初は知り合いもなく日本語も不十分で不安だったが、スーパーでの買い物、銀行口座の開設など、一つ一つの挑戦が自分を強くした。○失敗こそが成長のチャンスであり、挑戦することが未来をつくると学んだ。安全を選んでいたら今の自分はない。・・・如何でしょうか。自分を高めるために大切なことを彼らは伝えてくれました。皆さん、こんな素晴らしい機会をぜひ一緒にしませんか？

